

日本子ども支援学会

ニュースレター

# 風の便り

2月臨時増刊号

2020.2.1

<日本子ども支援学会 2020年2月ワークショップ>

「里子・里親問題を考える」

日時：2020.2.1(土) 2:00～4:00

場所：八重洲北ロルノアール会議室

司会：石田祥代会員

演者：深谷和子会員・青葉絃宇会員



(撮影：清 文枝)

## <里子のWBと里親のサスティナビリティ（養育持続性）>

一里親の中にある「里子の内的世界（自分と自分を取りまく環境）」をめぐって

深谷和子（東学大名誉教授）

キーワード：養育の断絶、養育返上、里親の自己効力感、里親のサスティナビリティ

なお、以下に引用するデータは、2018年12月から2019年2月に行われた文科省基盤研究C「社会的養護（里親家庭）から巣立つ若者の自立支援に関する研究（研究代表者中山哲志）」、研究分担者：中山哲志、深谷昌志、深谷和子、金城悟、石田祥代、研究協力者：青葉絃宇他4名）からのものである。調査対象は関東甲信越に住む里親1,258名（全数）で、アンケートの回収率は61.8%であった。

### <はじめに>

40年以上も前、アメリカ西海岸の家庭を訪問した時のこと。玄関にぞろぞろと出てきた数人の子どもたちは、みな肌の色や髪の毛の色が違っていた。日本人の訪問客が珍しかったのか、「里子のヘンリーです」「里子のエレンです」のように、口々に名乗り始め、ひどく驚いた。日本だったら、聞かれもしないのに来客に自分から「里子の二郎です。里子の三郎です」と名乗るだろうか。日本の場合は、里母もPTAその他で、子どもが里子と悟られないように気を使って振舞っている。日米の里子・里親事情がこれほど違うのかと驚いた。きけば、アメリカでは里子を預かる時、何歳まで、何年生までのように期限を切るのだとか。里子もそれを知っていて、自分は何歳までこの家にいる、つぎは〇〇さんの家に行くなどと知っているとか。日米の里親里子事情の差に大きな衝撃を覚えた。

### 1) 養育返上と里親のサスティナビリティ

平成30年3月末現在、日本で里子と呼ばれる子どもたちは約5,500人。その子どもたちの養育を委託されている養育家庭は約4,300。里子は一定期間を経て、「実家へ戻る、養子縁組、就学、就職、転居（消息不明も含め）、里親の養育返上等で施設等へ戻る」など、種々の理由で里親家庭から離れていく。

子どもは（実）親の下に生まれ、養育されて、やがて就職や結婚など自然な形でそれぞれが「自立」の日を迎えるが、里子は、何らかの事情から、実親による保護と養育が受けられず、いわば人生の早期に「養育の断絶」（養育者の変更）を経験した者たちである。さらに里子は、制度的に18歳または20歳で里親の養育を打ち切られる。実子の自立は就職や結

婚等によってゆっくりと進行していく過程であるが、里子にとっての「自立」は制度に支配されて発生する。里子が（里親家庭からの）巣立ちの日どう迎え、その後をどう生きるか。そして、必ずしも十分な状態でない「里子の自立」を、その後どう支えていくかは、里親だけでなく社会的な課題の一つかもしれない。

また里子は、実親による不適切な養育（例えば虐待）や「養育断絶」等から受けたダメージによって、しばしば「育てにくい」子どもたちである。そうした子どもの「養育の困難」から、受託途中で里親が里子の「養育を返上」し、里子が施設や別の里親に戻される場合も出てくる。しかし、里子に養育困難な状況があっても、多くの里親が養育を継続していくのはなぜか。委託された里親の下で里子がよき成長を果たすためにも、「里親のサステナビリティ」（養育持続性）をどう保証するか。その要因の一つとして、本稿は里子のウェルビーイングに支えられる里親の姿を見ていく。

## <2018年度調査から>

里子の中には少なからず発達障害的な行動を示す子どもたちが含まれ（表1）、また人の心への「共感性」が低い傾向など（表2）が里親との関係にも働いて、共に里親のサステナビリティを低下させる要因となっていると言えそうである。

## 2) 発達障害的な行動傾向と共感性の欠如

里子にはしばしば、発達障害的な行動特性をもった子(表1)や、対人関係における「共感性」を欠く子(表2)がいる。

表1 Aちゃん（里子）「発達障害」的な傾向 (%)、

注) Aちゃんとは委託されている子が1人の場合はその子、複数の場合は最年長の子

	とても感じる	かなり感じる	感じる ・小計	あまり感じない	全く感じない
①行動がマイペース	31.3	34.6	65.9	26.5	7.5
②気が散りやすい	21.5	32.1	53.6	33.6	12.8
③よく、不注意なミスをする	18.4	24.9	43.3	41.3	15.4
④一方的にしゃべる	15.6	21.1	36.7	38.8	24.6
⑤じっとしているのが苦手	14.8	27.3	42.1	36.0	21.9
⑥落ち着きがない	14.6	25.2	39.8	40.7	19.5
⑦情緒が不安定	12.7	21.0	33.7	45.9	20.5

表2 Aちゃんの「共感性」の乏しさ (%)

	とても感じる	かなり感じる	感じる ・小計	あまり感じない	全く感じない

①相手の気持ちを察する力に乏しい	18.4	23.1	41.5	38.5	20.1
②相手の気に障る言葉を使う	16.3	22.0	38.3	38.8	22.9
③人とのトラブルを起こしやすい	11.1	16.9	28.0	44.2	27.8
④人からの愛情を理解できない	10.1	14.0	24.1	43.9	32.0
⑤人への思いやりに欠ける	7.9	16.4	24.3	45.0	30.8

そうした(育てにくい)特性を持つ里子を引き受けて、その成長を図る里親とは、表3に見る③「実子の代わりに」④「実子にきょうだいがほしくて」等の動機もあるが、多くは、自分が何か(誰か)の「役に立ちたい」という「援助志向」の熱い心をもつ人々である。

表3 里親を志した理由 (%)

	全くそう	かなりそう	小計	あまりそうでない	全く違う
①親との縁の薄い子の役に立ちたくて	37.1	35.6	72.7	8.9	18.4
②実子がないので、子育て体験を	35.5	20.0	55.5	5.1	39.4
③実子がないので、養子が欲しくて	29.0	18.0	47.0	9.7	43.3
④子育てが一段落し、役に立ちたくて	13.1	8.9	22.0	5.7	72.3
⑤周囲の人や知人に勧められて	7.2	9.7	16.9	10.2	72.9
⑥仕事が一段落して、役に立ちたくて	5.3	7.9	13.2	12.6	73.9
⑦実子にきょうだいが欲しくて	3.3	5.7	9.0	4.2	86.8

しかし、しばしば養育のむずかしい特性をもっている里子の養育は決して平穏な日々ではない。里親は時に、養育を返上したいと考えることもある(表4)。しかし、実家に戻るような場合は除いて、再度の「養育の不連続」は、出来れば避けねばならない。困難の転属にあっても、サステイナブルである里親とは、里子のよき成長(WB)についての里親の「自己効力感」があってではなかろうか。

表4 養育返上を考えたか (%)

	何度も考えた	何回かある	考えた・小計	ほとんどない	全くない
全体	6.5	26.1	32.6	19.7	47.7

\*返上を考えた里親(小計)は、里子が3歳までは比較的少ない(20から25%)が、13歳以上で大きく増加し、13歳以上では40%を超える(結果は省略)。里親の歴史は(ある意味で)「失望の歴史」と言えるかもしれない。

また表5で見ると、発達障害的な傾向の有無よりも「里子と気が合うかどうか(里親の心気持ちを敏感に感じ取る力)」の有無とかかわりが深いかのようである。表5で返上を

考えた里親は、「①どうしても、②あまり気が合わない」里子の場合では、(小計の欄を見ると)7割近くになっている。

表5 養育返上を考えたか×Aちゃんと里親は「気が合う」か (%)

	何度も考えた	何回かある	(小計)	ほとんどない	全くない
全体	6.5	26.1	32.6	19.7	47.7
①どうしても気が合わない	<b>33.3</b>	<b>33.3</b>	<b>66.6</b>	0.0	33.3
②あまり気が合わない	<b>15.1</b>	<b>52.8</b>	<b>67.9</b>	18.9	13.2
③気が合うこともある	9.5	35.6	45.1	23.9	31.1
④かなり気があう	2.1	17.8	19.9	23.1	57.0
⑤とても気が合う	0.0	9.3	9.3	5.2	<b>85.6</b>

すなわち、里子が養育上の難しさをもつ子であっても、里子自身が幸福でよき成長を遂げつつある(WBな状態にある)と里親が思えば、それは里親にとってもWBな状態であり、日々の養育の努力が里子によき最長をもたらしているという「自己効力感」を里親にもたらして、それが里親の養育継続(サステナビリティ)を可能にしていくのではなかろうか。

以下は、里親が養育を継続するための(サステナブルな)要因として、(里親による)里子の中の「ウェルビーイングな日々」の有無を、やや丁寧に見ていく。

### 3) . 里子のWB－自分と自分を取りまく世界へのポジティブな感覚

ウェルビーイングについては、WHOの定義した「身体的、精神的、社会的に良好な状態」(1964)をスタートに、心理的な健康や心理的安定感を重視するなど多様な角度からの測定が試みられている。例えば木村は、子どものWBについて「子どもが心安らぐ安定した生活環境をもち、希望や将来への夢をもって生活出来る状態」すなわち「子どもが健康で安定した生活を実現できている状態」としてその尺度化を試みている。(鼻中宗一、木村直子他、文部科研平成16度報告書)

なお岩竹美加子氏は、最近出版された「フィンランドの教育はなぜ世界一なのか」(新潮新書817)中に、より丁寧な説明をしている。

WBは、フィンランドでは権利と並ぶ重要な「教育の柱」である。「健康、体に不調がなく、心地よい、日々の生活の快適さ、生き生きとしている、気分が晴れやか、自尊心が持て

る、自己肯定感がある、他人も尊重できる、人と心地よくつながっている」いわば体感と直結した感覚であると説明されている。（同書p.9～10）

筆者は2018年度全国調査の中で、「里子が自分や自分を取り巻く世界をどうとらえ、どう感じているか」を（子どものWBな状態像）、里親に「里子になったつもりで」たずねた（表6）。

#### <調査票より>（ママ）

---

ここからは、ちょっと変わった質問ですが、里子さん（仮にAちゃんとします）についてお答えください。現在、何人もの里子さんを育てておいでの場合は、一番年上の里子さんを、「Aちゃん」としてお答えください。

1) Aちゃんは、現在、何歳ですか（ ）才  
（以下は、もし里子さんが赤ちゃんなど、小さい幼児の場合とはばして、次に進んでください）

2) ちょっと変わった質問になりますが、ふだんAちゃんは、どんな気持ちで過ごしていると思われますか。あなた（里親さん）が、Aちゃんになったつもりでお答えください。

（ 1. とてもそう 2. かなりそう 3. すこしそう 4. あまりそうでない 5. 全くちがう）

- |                                 |              |
|---------------------------------|--------------|
| 1. 私（Aちゃん）は、明るく元気な子（人）です        | （ポジティブな自己概念） |
| 2. 私（Aちゃん）は、毎日楽しく過ごしています        | （幸福感・安定感）    |
| 3. 私（Aちゃん）は、つらいことがあっても頑張る子（人）です | （レジリエントな自分）  |
| 4. 私は失敗しても（落ち込んでも）すぐ元気になります     | （レジリエントな自分）  |
| 5. 私は、困っている人がいたら助けてあげようと思います    | （ポジティブな自己概念） |
| 6. 私には、一年ごとにできることが増えています        | （成長感覚）       |
| 7. 私は家族から大切に思われています             | （家族的環境）      |
| 8. 私は担任の先生が好きです                 | （学校環境）       |
| 9. 私には、何でも話せる（仲のいい）友だちが何人もいます   | （学校環境）       |
| 10. 私には、大人になったらやりたい仕事があります      | （未来への展望）     |
| 11. 私の将来には、いいことが沢山待っていると思います    | （未来への展望）     |
- 

4) 里子はWBか（里親の中にある里子の姿をめぐって）

## (1) 里子のWBな日々

里親は全体に、養育中の里子はWBな状態にあると思っている。

表6 里親の中にある里子像

\*設問 (里親に)Aちゃんはどんな気持ちで毎日を過ごしていると思いますか (%)

	とても そう	かそう なり	少し そう	やや 違う	全く 違う
①友だちといっしょにいるのが楽しい	46.3	35.9	12.4	3.8	1.6
②1年ごとに、できることが増えている	39.3	32.0	21.2	5.7	1.8
③明るく元気な子です	37.9	36.5	16.2	6.9	2.5
④私は家族から大切に思われている	34.9	38.1	19.5	4.4	3.1
⑤私は自分のことが好きだ	29.7	35.7	23.1	8.1	3.4
⑥落ち込んでも、すぐに元気になる	28.5	41.8	17.9	9.0	2.8
⑦毎日楽しいことがたくさんある	25.3	41.8	21.6	8.8	2.6
⑧将来にいいことが沢山待っている	23.0	36.6	27.3	9.2	3.9
⑨大きくなってやりたい仕事がある	22.9	22.6	32.2	14.4	7.9
⑩私は自分をごんばる子だと思う	20.2	34.3	27.5	12.7	5.3
⑪私は困っている人に役立つ子です	14.2	27.6	35.4	15.4	7.5

\*多く項目で、「とても・かなりそう」と肯定されている

表7 AちゃんのWBな状態についてのグルーピング

	粗点	%
①WB上位群	3~18	27.1
②中間群	19~29	49.3
③下位群	30~	23.6

(\*表6の、とてもそうを1点~全く違うを5点として、WB上位、中間、下位群に3分割)

## (2) 年齢、共感性、学力とWB

表8 Aちゃんの現在(WBか)×年齢 (%)

	WB上位群	中間群	下位群
①~2歳	50.7	49.3	9.0
②3~5歳	40.7	40.3	7.1
③6~9歳	33.3	52.2	12.3
④10~12歳	22.7	55.7	21.6
⑤13~15歳	16.2	46.5	37.4
⑥16歳~	13.7	45.3	41.6

表9 里子の共感性×WB (％)

	共感性が乏しい子	中間	共感性豊かな子
①WB上位群	6.5	43.9	49.5
②中間群	21.3	54.9	24.7
③下位群	40.2	47.1	12.6

\*里母は、WB上位群ほど共感性が豊かな子と捉えている

表10 里親は里子と気があうか×WB (％)

	どうしても 気があわない	あまり気があ わない	気があう こともある	かなり 気があう	とても 気があう	気があう (小計)
①上位群	0.6	4.5	27.1	37.3	30.5	67.8
②中間群	0.6	7.9	36.0	43.6	11.8	55.4
③下位群	4.0	12.6	2.9	19.2	1.3	20.5

\*上位群ほど「気が合う」とする傾向にある

なおWBな状態かどうかと、里子の学力(算数や国語を例とした)は、関連がみられなかった。

### (3) 里子が好きかとWB

—養育返上の気持ちと里子を好きか

表12 過去に養育返上の気持ちがあったか×里子のWB (％)

	何度も真剣に	何回かあった	殆どなかった	全くなかった
WB上位群	3.3	23.8	12.7	60.2
中位群	4.5	22.2	24.6	48.6
下位群	11.8	38.8	19.1	30.3

\*上位群ほど「返上の気持ちが全くなかった」割合が大きい

表13 (いくつかの欠点はあるが) 里子が好きだ×WB (％)

	とてもそう	かなりそう	あまりそうでない	全然違う
WB上位群	88.3	7.8	3.9	0.0
中位群	72.0	21.9	5.5	0.6
下位群	36.9	38.1	21.9	3.1

\*上位群ほど里子を好きだと思っている

#### (4) 里子の将来予測と里親の支援、養育の充足感

ー里子は将来大学へ進学していると思うか

表 14 Aちゃんについての里親の将来予測 1 (大進学見の見通し) ×WB (%)

	きっと そうなる	かなりそう なると思う	そうなる だろう・小計	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
①WB上位群	39.7	20.5	60.2	19.2	20.5
②中間群	24.0	24.6	48.6	17.7	33.7
③下位群	10.6	10.6	21.2	22.1	56.7

+上位群ほど、大学へ進学していると予測

表 15 Aちゃんについての里親の将来予測 2 (将来の職場での信頼) ×WB (%)

注) Aちゃんが25歳位の頃、職場の上司や同僚から信頼されていると思うか

	きっと信頼 されている	かなり信頼 されている	あまりそう 思わない	全くそう思 わない
①WB上位群	34.2	46.8	16.5	2.5
②中間群	12.9	53.6	29.7	3.8
③下位群	2.5	25.2	52.1	20.2

\*上位群ほど「信頼されている」と予測

表 16 Aちゃんが将来経済的に困窮したら里親は援助するか×WB (%)

	(里親なので) 援助する気持 は全くない	(よほどのこ とでもなけれ ば)援助する気 はない	事情によっては、 多少援助する気持 ちがある	(援助する必要は ないと思うが)多少 の支出は覚悟して いる	実子と同じ程度の 援助を覚悟してい る
①WB上位群	2.2	5.6	18.9	21.1	52.2
②中間群	4.0	7.6	27.6	21.1	39.1
③下位群	8.7	14.2	29.9	24.4	22.8
全体	5.1	9.4	26.5	22.3	36.7

\*上位群ほど実子同様の援助を覚悟している

表 17 Aちゃんの養育が自分(里親)の張り合いになっている × WB (%)

	とてもそう	かなりそう	あまりそうでない	全然違う
WB上位群	80.4	11.2	7.3	1.1
中位群	57.4	27.9	11.4	3.3
下位群	26.8	27.3	33.4	11.3
全体	56.4	23.3	15.4	4.8

\*上位群ほど里親の張り合いとなっている

## まとめと課題；

里子は、時期は別として（実）親からの養育の断絶を体験した子である。里親は熱い心で、そうした里子の養育に当たっているが、養育の日々は決して平穏なものではない。しかし多くの里親は、里子の中に「WBな今」を見て養育を続けている。表6の左端（とてもそう、少しそう）の数字に見られるように里親の中にある里子像はめっちゃ明るい。多くの里母が、自分の養育によって、里子の上にウエルビーイングを生んでいると思っている。それが志願して里親になった里母のウエルビーイングをもたらし、それが養育持続（サステイナビリティ）要因の一つではなかろうか

但し当然ながら、以上の調査データには養育を返上した里母は含まれていない。養育を返上した里親の背景には（難しいことだが）、また別の調査と分析が必要であろう。（課題1）

しかし今里親のもとにいる里子に「養育の再度の断絶」の不幸を招かないためにも、また、より多くの里親志願者を生み出すためにも、里親や里子の上にWBを生み出すような支援、さらにすべての子どもWBであるために、ひろくは学校、地域、社会による子ども一般の発達支援が必要ではなかろうか（課題2）。また発達につまずきをもつ子どもへの成長援助のための心理学的、福祉学的研究も期待される。（了）

## <里子の巣立ちの風景を考える>

青葉絃宇（東京養育家庭の会参与）

キーワード：措置解除、迷惑をかけられたこと、経済的困窮への支援、里子の自立

### <はじめに>

里子は高校をした時点で原則措置解除となり里親の元を離れる。巣立った後の里親子の状況を長い視野での研究は少なく、目にするのは高卒直後の進路や暮らす場の調査に留まっている。里子の自立の行く末を捉えておくことは、里親養育の成果を見ることにもなり、次の子育ての貴重なお手本になる。しかし、措置解除後は行政から切り離されデータを集めることが難しくなり、個々の生活が優先し当事者の声に出会う場も極端に少なくなる。

2019年度に実施した「里親の養育意識調査」結果の中に、これまでに言及されなかった自立を巡る里親子の風景を見ることができる。巣立ち後の姿、及び里親子関係の現実と里親の願望とのズレについて考える。

里親の心情についてはアンケートの読み取りに里親へのヒアリングを通じて得た見方を加え、里子の動きの全体像については行政統計を使用した。

### 1、里親から離れた子どもの状況

行政データ（表1）によると、高校を卒業して措置解除となった里子は、その年に移動した子どもの1割程度である。本稿で取り上げる里子の自立場面は、この1割の領域を前提にしている。

（表1）里親の下は離れた子どもの状況（平成29年度福祉報告例）

	措置解除（1,395）				措置変更（447）			合計
	帰宅	養子	満年令	その他	障害/児童施設	他里親	種別変更等	
里子数	425	392	164 (9%)	414	202	142	103	1,842

- ・帰宅：親元の環境が改善されて引き取り。
- ・養子：特別養子362人+普通養子30人
- ・満年令：高校卒業して里親の元を離れる。

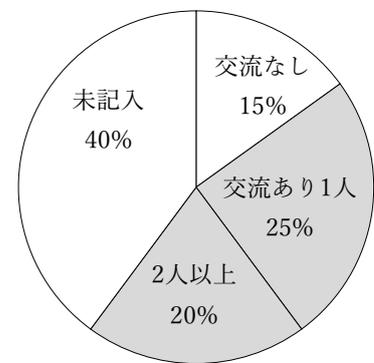
- ・その他；学校中退して就労、20歳になった、他県移動、自立援助ホーム・司法関係施設に移動、
- ・変更：障害児施設、児童施設、ファミリーホーム、他の里親、里親種別の変更

## 2.1 8歳後の里親子の関係

質問 里子を送り出した里親にお聞きします。交流はありますか。

図1

里親子の関係については関係者の関心が高く、18歳の姿こそ里親養育の成果が目に見える形になって現れる時である。高卒後の里子の消息、来訪、交流の状況はいずれも似た傾向を示していたので、交流のあるなしの項目を示すことにする。一口に関係継続と言っても、個別の事情を聞く限り、その質や時間の経過とともに変わるもので、一括りにすることは難しい。高卒後の関係としては、関係が続いているのは約半数であった。(図1)



高卒後の調査対象となった一部の里親から個別事情を聴きとることができたので、データと個別事情を合わせて背景を考える。

### ① 暮らしの場を巡っての個別事情

同居事情を例にとってみると、自由記述と里母へのヒアリングから同居の経緯や前提などさまざまな風景が見える。

(解除後、里親の家にいた例)

- ・ 養子縁組を考えている、縁組をして里親にいる。
- ・ 4月から8月まで里親宅に住ませた。
- ・ 大学中退まで里親と同居、専門学校への変更時に一人暮らし。
- ・ 通勤寮に入るまで措置延長し、里親の家にした。
- ・ 大学に進学するも留年を経験、里親の家業を手伝っている。
- ・ 里親の家から予備校へ通い再受験に向けて準備し、今はアパート生活。
- ・ 20歳を契機に里親の家を出て行った。(22歳の例もあり。)
- ・ 里親宅を考えていたが、高校3年の夏休み後に祖父母が引き取って行った。

(解除後、家から離れた例)

- ・ 住む場所を里親の近くを選び、食事などを時々食べに来ている。
- ・ アパートに住み奨学金などを里親が管理している。
- ・ 学校の近くにいる里親の親戚の家に下宿させている。
- ・ 家を出て、ライン通信の繋がりだけの関係になっている。
- ・ 家を出て進学した後、直ぐに結婚して退学してしまった。
- ・ 進学の後、精神的不安定となり2年後に退学、生活保護を受けている。
- ・ 就労が上手く行かず、自立援助ホームへ進んだ。
- ・ 学生寮を確保したが、大学を中退し寮も退所になる。
- ・ シェアハウスの費用を里親が負担している。

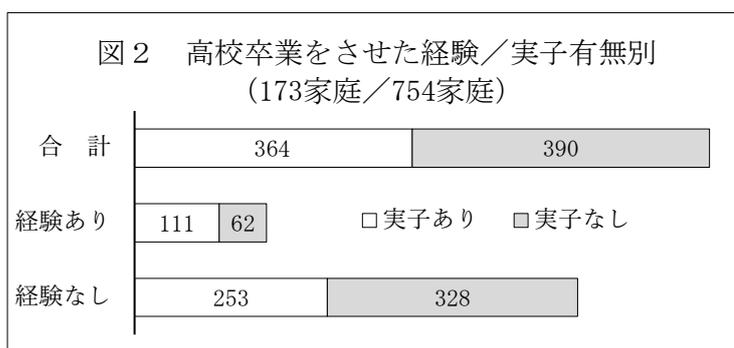
## ② 高校を卒業させた回答者173名の意味

754人中173人(23%)が回答。この人たちは、里子を巣立たせた後に次の子どもを受託しているか、複数の子を養育し続けており、経験豊かな里親といえる。高校を卒業させた後、一区切りと考えて里親を辞退する人達が多数いるなか、引き続き里親活動をしている。彼らは里子の歩みを一通り見ており、行く末も見える立場にある。

この173組の里親はリピーター層を形成しているともいえ、里親が増えない現状にあって2巡目、3巡目の養育にチャレンジできているのは貴重な存在でもある。

高卒を経験させた里親と実子の有無とクロス集計した結果は図表3の通りである。回答者全体では実子有り/無しが半々の割合となっているが、高校を卒業させた経験のある里親は、実子のいる里親が6割を越えている。(図2) 子育て経験のない里親は

1人育てれば十分と考える傾向があるのかも知れない。子育て2巡、3巡を選ぶ里親は、育児によるダメージが少なかったのか、特別な視点を持っているのかなど今後とも注目していきたい。

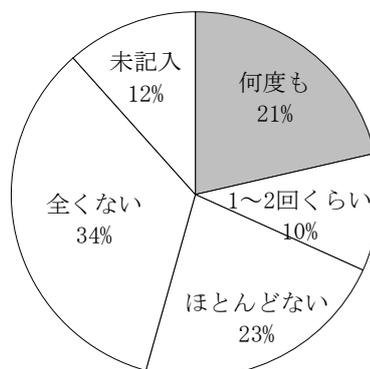


## 3. 迷惑をかけられた経験

質問：18歳以上になった(手を離れた)元の里子さんから、迷惑をかけられたことがありますか。

図 3

何度も迷惑をかけられたと回答した 2 割の里親は、強く記憶が残っているから、迷わず迷惑の項目を選択するだろう。迷惑の中身の実際と受取り方は、人により大きく異なる筈である。未記入を含め残りの 8 割の里親は迷惑と感じる程度が薄い層といえるかも知れない。(図 3)



迷惑の中身については自由記入欄と里母へのヒアリングを通してみると、里子との出会いで経験する試し行動や子育て中のトラブルの洗礼を受けている。登校渋り、偏食、夜泣き、乱暴など数え上げたら限がなく、巣立ち後もアパートの部屋代の督促状が届いた、部屋が汚いと家主から電話が入った等を含めてさまざまな困り事を乗り越えている。

ヒアリングにおいても「大変なことは一杯あり過ぎて言いようがない」としながらも、それを「迷惑とは考えていない」と里親は口を揃えている。18歳後の付き合いに際して「ほっとけない」との心情が底辺に流れており、若者は誰でも有り得ることとして覚悟を決めていることが伝わってくる。育児の困りごとを迷惑と位置付けていない姿がそこにはあった。

一方、里子自身が里親に迷惑をかけたかどうかなの問題もある。大人が思うほど若者は大人に迷惑を掛けていると感じていないかも知れない。里子OBとの会話には迷惑を掛けたという話は出てこない。けろりと忘れていたようだ。暮らしを共にする家庭養護の魅力の一つでもある。

#### 4. 里親が考えている里子の進路と居場所

質問 「あなたのお気持ちとしては、お宅Aちゃんの養育を続けるとしたら、Aちゃんの高校卒業の進路として1~8の中でどれが ①望ましいと思いますか。そして ②実際はどうなると思いますか」 (回答率 61%)

進路については、子育て中の 7 割の里親が高卒後の高等教育に進む事を願っており、子どもが小さい頃の方が願望が高い。一方、行政統計では就職と進学が半々という現実が出ており、里親の期待通には進んでいないようでもある。進学について国を挙げて奨学金などの整備が進んでいるので、進学は年々増えていくと思われる。

表 2 里親の高卒後進路の予測

住まいについては、里家宅に留まっても良いと考えている里親は 5 割程度である。

	家を出て	里親宅で	計
就労	80	65	145
進学	152	168	320
計	232	233	465

措置解除後に同居することは全て里親負担になる。予測といえ、半数が同居も想定

しているのは、実子同様の感情が浸透している証かもしれない。東京都 27 年度調査によると、巣立ち直後の場については里親宅としているのは約 2 割程度であった。(表 2)

## 5. 里子が 25 歳になった時をイメージして、その付き合いは (里親の願望)

質問 里子 25 歳頃どんなふうに付き合いたいと思いますか

25 歳時での同居を希望する里親は 15%、里子との長い付き合いを望むのは里親の心情であろうが、意見が分れるところでもある。里親へのヒアリングでも、いつまで暮らしを共にするのか、結婚するまでとしても結婚できなかつたら同居を続けるのか、最近では親と同居してシングル生活を謳歌するスタイルも多くあるけれど、若い時は独立させる機会を作ることも大切ではないか。大人の下を離れて 1 人生活をしたいと考えるのは青春の特権でないのかななどの意見が続いた。

しかし、そこには家族の一員として里子を認めている姿があることは確実にいえる。一時期であろうとも家族として受け入れているサインは、子どもにとっては、大人を受け入れるゆとりと安心がある。

## 6. 経済的困窮時への支援の気持

質問 A ちゃんが成人して、経済的に困窮していると聞いたら、あなたとしては、A ちゃんの自立のために経済的支援をなさる気持ちをお持ちですか。

小学生を含む養育中の里親 (506 人) の内 415 人が回答。里子が経済的に困難な状況になった時、1 割強の里親は断る/余程の時のみに援助すると考えている。9 割の里親は何らかの関与はすることになるだろうと予測している。ヒアリングでは「ほっとけないから」と発言が大勢であった。子どもと生活を共にするとは、このような感情が育つのであろう。(表 3)

卒業させた里親からは 18 歳以降の経済的困窮の事例が具体的に出てきていない。筆者が続けている相談でも困窮した例は 1、2 件でしかない。その内容も 1 人生活を始めて給料日前に財布が空になったなどの一過性の失敗談程度であった。世間では、里子が貧困と孤独の代名詞のように流布されているが、堅実な生活を送る里子が多いことが分

かる。血の繋がらない関係を里子は知っており、実の親子のように無制限に負担を求め  
るような動きにはならない。

表 3	小学生	中学生	高校生	計 (%)
未記入	64	3	15	91 (17%)
あくまで里親なので、援助する気は全く気持ない	2	5	16	23 (4%)
余程のことが無ければ、援助する気はない	12	11	17	40 (7%)
基本的に援助する気はないが事情によって、多少の援助をする気がある。	26	35	35	96 (18%)
援助する必要はないと思うが、多少の支出するのを覚悟している	36	20	40	96 (18%)
元里子であっても実子と同じ程度の支出を覚悟	90	26	44	160 (31%)
回答者数	175	97	152	415
回答対象者数	239	100	167	506

### まとめ：今後に向けて

現在の里親指針は公的な子育てを掲げ、制度の構築と適正な運用に力点がおかれている。養育の質に関しては里親支援と研修に委ねられており、その中身はノーハウの紹介レベルに留まっているように見える。里親を支えている心情の深い部分に触れることは少ない。生活を共にすることが感情の一体化を生む鍵となっていることを共有していきたい。

里親子が18歳で同居を選んだとしても数年先には独立していく。人は巣立ちを迎え、何時どんなスタイルで巣立っていくのかの問題が残るだけである。里子の場合では、20代後半まで同居を続ける例は稀であり、いつまでも同居を続けられる実親子の関係とはこの点が大きく異なる。

若者が独りで立ち向かう勇気が湧くような子育てこそ、里親養育に求められており、心の絆を保ちながら巣立ちを後押しする知恵が必要である。里子若者の集いで拾った発言に「里親には子どもが自立する立場を真に考えて欲しい。里親の自己満足ではない子育てを目指して貰いたい」とあった。耳に残る一言であった。(了)

### <質疑応答覚書> 文責：清文枝会員

(青葉さんのお話の後で)

深谷昌志 (以下深谷m) : アメリカの里親はまさに「ステップ」。この家には2年いて次は別の家と移っていくことを里子自身も知っていて気楽に口にする。一方日本では、里親は里子

を実子と同じように育てている。里親の感覚は日本の古い家族制度そのものなのに、里親の仕組みはといえば、アメリカ・ヨーロッパ的であり、そのずれが苦しみを呼んでいるのではないか。

### 【ファミリーホームと里親】

石田：皆さんが少しわかりにくかったかなという部分を。

資料9 ページにファミリーホームという言葉があり。ファミリーホームとの違いは？

青葉：里子が増えてきて4人以上になるとファミリーホームになる。最大で6人まで。ファミリーホームになると手当も施設と同じような扱いになり、自立の難しかった里子も補助者として給料を得て手元においておけるようになる。

深谷m：里親とファミリーホームの雰囲気は違う。本来里親は「家庭的な雰囲気の中で育てよう」という意図がある仕組みだが、ファミリーホームでは施設的になってくる。

青葉：「家庭養護」と「家庭的養護」の大論争というのがある。国の方針では「的」はやめようというが、自治体は、それでは現場が回らないので「的」なものを入れてくる。ほとんどの自治体はファミリーホームスタイルが多い。我々は「的」を抜いた「家庭養護」がしたいが、なかなか「的」は抜けない。今も戦いは続いているが我々が負けている。決着はまだついていない。

### 【里親の意識】

衛藤：里親の意識について。実子と同じようにという考え方と、一定の区間を区切って里親をしようという考え方は、実感としてどんな割合か？

日高：里親を25年やっている。危ないことをしたときペンとおしりを叩けるのが実子。里子はそうはいかない。ほとんどが発達障害ではないかというようなぐらついた子に付き合うわけだが、威力で押さえると虐待につながる。それで困ることも色々ある。

石田：今回の調査では18歳まで育てた里親に話を聞いているが、実態としてはそんなに長くはない。

青葉：平均で5年くらい。10年以上里子と生活しているのは1割いかない。表のとおり、実家に帰る人などもいて高校まで卒業させた里親は9%に過ぎない。その後の関係については、2割くらいは音信不通。それ以外の8割は何かの形でつながっている。我が家もそんな感じ。連絡が途切れていても、「結婚したよ」「子どもできたよ」とやってくることもある。長いスパンで見えていかないと。

### 【制度について…里子の精神的ケア】

日高：里親の8~9割は、里子を養子としていきたい。だから、里子も気を使って実親に触れない。そこにずれができる。虐待されたことがクリアにされないまま成長していく子どももいる。児童相談所の心理士が、固定で長い期間にわたって子どもと関わっていくことが必要

だと思っている。

もう一つ医療費の問題もある。里子は精神的に不安定で精神科を長期にわたって受診する必要があることもある。生活保護を受けていると受診券を使えて医療費はかからないが、20歳の誕生日になるとこの受診券が取り上げられてしまい有料になり、受診を続けられなくなってしまった。国の支えが必要。

石田：児童相談所の心理職の話が出たので、そこを話したい。

児童相談所の職員は確かに一定期間で代わっていく。せっかく特定の児童と関係ができてそれを長く続けられない。「親子相談所のようなものが出来たらいい」というご提案があったが、そのような働きかけもしていけたらと思う。

### 【里子の意識】

深谷和子（以下深谷k）：里子自身はどう理解しているのか。アメリカとの違いとして、日本の里子は「うちに何年いるのか」といった捉え方をしているのかを知りたい。

深谷m：アメリカでは、里子自身が知っている。「僕、次はあそこの家だよ」といった話もする。アメリカ人はボランティアに積極的、何人もの里親が地域の中においてその中で動いていく。

青葉：日本の場合は不透明。

深谷k：「ずっとそこの家にいられる」と思うから、里子の心は安定すると思う。アメリカのように「次はここ」なんて言われたら落ち着くことができるのか？

深谷m：アメリカは離婚家庭も多い。ある学校を訪問した時に質問してみると、両親が離婚しているという子どもがクラスの8割もいた。家族のありようがそもそも多様で日本とは前提が違う。

深谷k：アメリカの子どもはそもそもが自立している。だから受け入れられるのか。

衛藤：私も高校時代アメリカで過ごした。アメリカはベースが違う。早くから自立を教え、小さくても「自分で決める」ことを大切にする。日本のようなぼうっとしたところで育てるのとは違うと思う。

### 【里子の就労】

石田：里子の就労について。東京の例で構わないが、実際に就労するとなった時にどのような仕事についているのか？

青葉：自由に記入してもらったら「ポン引き」「客引き」とかいろいろ書いてくる。行政的には「接客業」とまとめられるが、実際にはアルバイト。18歳で卒業してなかなか正社員にはなれない。

中山：そうした職業などを決める時の情報を里子はどう得ているのか。里親は情報交換ができるが、里子の方は里親に相談したり、同じような仲間に相談したりするのか。そのような場はあるのか。

青葉：行政は信用しない。職安に行ったら教えてもらえないし、学校に行っても説教されるだけ。一番いいのは仲間。仲間がラインで「こういう仕事あるぞ」って教えてくれる。

深谷k：青葉さんは素敵なシャツを着ている。巣立った里子さんが里家を出入りする時プレゼントしてくれるそうだが、そのような良い関係をどう築くのか。

青葉：卒業していった里子たちがねぐらのようにしている。おおらかになればいいのかなと思う。

日高：千葉県は、里親の集まりに里子を連れていく。東京の場合は高校以前の里子の集まりがある。同じ境遇同志、自分の悩みをストレートにぶつけることができる。

石田：青葉さんのところに出入りしている里子は何人ぐらい？

青葉：子どもの頃から繋がっていくと、やってきたら「お前どうした？飯食ったか？」という関係になる。今回回答をくれた173人はそういう里親たち。しつけをしようと思ったら実子と同じように育てるしかない。そして、「18歳になったらお前出ていくんだよ」とバサッと切って、一通り経験させてあげればいい。

### 【里親への援助・対策】

石田：和子先生の調査の方で、「返上予備軍」の話が出た。wb(ウェルビーイング)が低いということで返上を考えた里親への対策として、例えば、発達障害など重度の場合は研究者が出る、手当を増やす、里親に対して理解を持ってくれる存在を増やす、地域が許容するなど多様な取り組みがあると思う。里親の手当は今どのようになっているのか？

青葉：二つに分かれている。子どもに関する費用は施設の子と同じで全部出る。里親に出る手当は今度9万円になるが、二人目は3万円少なくなる。2人目はおさがりとか同じ部屋なら照明がいらないとかいう理屈で減らされている。実態としてはむしろ増やして欲しいと思うが…。

日高：色々な障害のある子のために「専門里親」がいるのだが、障害のある子に必ず専門里親が当たるかというところでもない。障害もあとからわかる場合もあり、一般の里親が難しい子供を育てることになることも多い。

石田：障害のある場合は、塾などでも個別指導が必要になり、その文お金も余分にかかるなど不公平だという声もある。

### 【行動障害、愛着障害】

深谷m：里親さんに預けることによって、5割くらいのお子さんが治っていくという状況が良くなっていく。でもどうしてもならない子も2割くらいいる。

深谷k：「行動上の問題」は重くても軽くても何とかなるものだが、「共感性の問題」はどうにもならない。里親の気持ちに共感できないと関係維持も難しくなる。「共感性」をどう育てるか。それは難しいと思う。

河村：発達障害は治らないもので、どんな形態の家庭にもいる。この人数の多さは「愛着障

害」からくるものではないか。その「愛着障害」が里親によって回復されていき、5割が治っているのは素晴らしいと思う。

青葉：発達障害なのか、不適切な環境にあったために出ている問題なのかはわかる。病的なものかそうでないのか。「小さい頃おばあちゃんに抱っこされたことがある」というような子は治る。

深谷k：出来たら赤ちゃんの時に預かりたいと里親は言う。あとになると愛着のきずなが作りにくくなる。

### 【学校・地域社会の中で】

由田：里親ということは学校でオープンにされているのか？

青葉：教員集団にはすべて話すが、子どもや親の集団の中は分けていく。

深谷k：隠すと思う。

石田：特に、養子縁組を考えている親御さんは言わない。

青葉：民法が変わって、今は「養子縁組」が良いとされ、勧められている。

日高：法律のことだが、養子縁組をしたときの問題として相続がある。里子の未来を守ることを考えて養子縁組をしたが、将来、実子との間で遺産相続がどうなるか。

石田：同居という形もあるが、それは？

青葉：18歳を超えて里親と一緒に暮らしている場合、措置延長と同居がある。措置延長というのは「18歳になったけれどこの子はまだ自立は無理だから20歳まで延長して」と伸ばすこと。同居は、卒業したけれど行くところがないからそのまま同居しているという形。

青葉：里屋のうちに来たら、普通のことをしてもらえたらいい。いじめるなどか、他の子と同じ、普通でいい。

衛藤：苗字はどうするのか。

青葉：里子と相談する。幼稚園までは名札を書くので里親と同じ苗字の方が都合がいい。

ヒアリングの中では名前を変えたという人もいる。実親の姓を、家裁に行って里親の姓にかえたいという子もいる。

深谷m：言っても仕方がないけれど、アメリカの場合は18歳で自立する。どんな子も18歳になったら自分の家を出ていく。日本の場合は8割が家から。普通の子は22歳になっても自宅から会社に行く。でも、里子は18歳でサポートがないまま社会に出るのだから大変だと思う。

深谷k：逆に、日本の子どもをもっと自立させないと…。

### 【里親になるときの意識】

衛藤：里親になる方の意識、実子として育てるといえるのはわかる。そうではない里親の意識というのはどういうものか。

青葉：本音は、「わが子が欲しい」。実子がいても同じ。「孤独」を辞書で調べると、「子にし

て親の無きを孤という」「親にして子の無きを独という」とある。「わが子が欲しい」は東洋的な感覚なのだろうと思う。

深谷m：韓国は夫婦別姓でアメリカ的な里親感覚。中国も同じ。東洋的とおっしゃたが、日本はかなり変わっていると思う。

### 【感想・雑感】

石田：まだお言葉を頂いていない方から感想をどうぞ。

吉田：小学校に努めているが、里子に出会った経験はまだない。学校に来てしまえば一緒だという話はその通りだと思う。いろんなご家庭がある。どんなお子さんも普通に勉強して普通に育っていけばいいのかな。

齋籐：「共感性」についての話はその通りだと思う。また、里子だけではなくて子どもたちから「共感性」が少し失われつつあるのかな。子どもが名前を変えるということ、里子には色々思うところがあるのでは。

青葉：それはそう。同じ名前じゃないと説明がつかないということで我慢はしていると思う。

深谷野亜：里子さんの方をどうケアしていくかという一方で、里親さんの悩みの解消、ニューカマー(新参)の里親さんをどう育てるかといったところはどうなっているのか。

日高：「里親を育てましょう」という気風が完備していない。里親の方から行政に働きかけている状況。里親の悩みは、「里親の会」で愚痴が言える。そのことで解消できる部分がある。

熊澤：里親と里子を何人か知っているが、「相性があるんだなあ」と感じた。男性と女性の差はあるのか？

青葉：私は男の子専門。男の子は楽。

和田：子どもが実親から愛情を受けられなくても里親さんから受けて成長する機会があることはとてもいいと思った。

由田：「血」って何かって思った。本当の親子でもいろいろある。虐待の子でも、実親だから離れられないという面があるなあと思った。

石田：日本の家族の実態も今後どんどん変わっていく中で、色々と乖離も出ているのだと思う。研究者の立場からも色々発信してよい方向に向けていきたい。(了)